



三菱商事

「ディスクロージャー優良企業」受賞に寄せて

三菱商事株式会社代表取締役常務執行役員コーポレート担当役員（CFO） 増 一 行

この度は商社部門のディスクロージャー優良企業に選定頂き大変光栄に存じます。ひとえに関係者の皆様のご支援とご理解によるものと、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

お陰様で弊社としては2年連続15回目の受賞となりましたが、この度の受賞は、アナリストの皆様からも貴重なご意見を頂戴しながら、適切な情報開示をすべく社内で議論を重ね、着実に取り組んできたことをご評価頂いたものと感謝しております。弊社のIR活動では、アナリストや投資家の皆様との積極的な対話を目指し、経営トップ(社長及びCFO)による海外投資家への個別訪問をはじめ、IR担当者も含めて年間400回以上の面談に対応して参りました。それに加えて、国内における個人投資家向け説明会や各営業グループによるアナリスト向け事業説明会、新規投資案件に関する説明会など、アナリストや投資家の皆様に弊社をより一層ご理解頂くための情報開示の場を積極的に設けて参りました。また、統合報告書やその他の媒体を通じ、総合商社のビジネスモデルを少しでも分かり易くご理解頂ける様に取り組んでおります。

特に2016年度は、5月に公表した「中期経営戦略2018」の初年度にあたり、その内容を広く、深く、正しくご理解頂くことに主眼を置いたIR活動を心掛けております。昨今の弊社を取り巻く外部環境は、地政学的リスクの増大や新興国需要の低迷により、これまで以上に先行きが不透明な状況にあります。斯様な環境下でも社員一人一人の創意工夫により新しいビジネスモデルを構築し、

社会に役立つ事業を追求していくことで、人材の成長と会社の発展が一体となった、持続性のある事業価値を創出する会社を志しています。その実現の為に、事業の中に入り、経営力を持って主体的に価値を生み出し成長していく「事業経営モデル」を推進し、次世代を牽引する事業基盤の構築を目指してまいります。また、突発的な経済異変にも対応できる盤石な経営基盤の再整備に注力しており、ライフサイクルを踏まえた事業ポートフォリオのリバランスを進め、キャッシュフローを重視した経営を実行します。

「中期経営戦略2018」の内容につきましては、2016年度版統合報告書にも掲載しておりますが、今後より一層その進捗状況について市場から説明が求められると認識しております。従い、同戦略の中核である「事業経営モデル」の具体的な考え方や、事業のライフサイクルを踏まえた投資入替の進捗、適正な資本配分とその達成状況、更には今後弊社の成長を牽引する分野への投資戦略について、如何に分かり易く開示できるかが重要と考えております。引き続き様々な形の対話を通じて、最適な開示を追求し、アナリストや投資家の皆様により理解を深めて頂ける情報提供ができるよう取り組んで参ります。

最後に、こうした対話を通じたアナリストや投資家の皆様とのエンゲージメントは、弊社の企業価値向上にとりましても不可欠となっており、引き続き積極的な対話と適時・公正な情報開示を心掛けて参る所存です。